

# 大学入試センターの 新テストについて

大津 起夫  
(大学入試センター 研究開発部長, 試験・研究副統括官)

2016年3月19日 11:00-12:00 日本数学会2016年度会  
筑波大学 1H201

# 報告の内容

- 大学入試を巡る改革論議の経緯
- 中教審高大接続特別部会答申（平成26年12月）について
- 高大接続システム会議の議論（最終まとめ案，平成28年3月）について（3月25日に最終まとめが発表予定であり、一部変更の可能性が在るため、発表後は「最終まとめ」を参照されたい）
- 学習指導要領の改訂について
- センター試験の現状について

# 大学入試を巡る改革論議の経緯

- 平成25年10月31日 教育再生実行会議(官邸が主催)「高等学校教育と大学教育との接続・大学入学者選抜の在り方について」(第四次提言)  
座長: 鎌田薫(早稲田大学総長)
- 平成26年12月22日 中央教育審議会(文科省が主催) 高大接続特別部会答申「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について」  
座長: 安西祐一郎(当時中教審会長, 日本学術振興会理事長, 元慶応義塾塾長)
- 平成27年1月16日 高大接続改革実行プラン(文科大臣決定)
- 平成27年9月15日 「高大接続システム改革会議」(調査研究協力者会議, 生涯学習政策局, 初等中等22教育局, 高等教育局 局長決定) 中間まとめ  
座長: 安西祐一郎
- 平成27年12月22日 「高大接続システム改革会議」(第9回) 国語, 数学問題イメージ
- 平成28年3月 「高大接続システム改革会議」最終まとめ(3月25日予定)(最新は第13回会議3月11日)
- 平成28年度中に, 学習指導要領改訂の答申(「教育課程特別部会」予定)

資料は文科省のWebサイトで公開されています。

# 大学入試を巡る改革論議の経緯(続き)

- 多くのマスコミなどに取り上げられたのは、平成26年12月22日の中教審高大接続特別部会の答申、および平成27年12月22日の国語、数学の問題イメージ(例題)
- 中教審答申のあとも、「高大接続システム改革会議」で議論が続いているが、具体的に決まったことは少ない。(試験科目, 時間, 日程, 運営主体などが未定)
- 中等・高等教育の広範な話題に言及しているが、注目されているのは2つのテスト  
「高等学校基礎学力テスト(仮称)」  
「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」
- 「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」の導入は2段階(平成32~35年度, 平成36年度以後)  
マークシート式+記述式+英語多技能試験 の構想
- 私見では、試験の作成方針に関して、知的能力論に基づく議論が多い(教科科目の具体的内容ではなく)
- 数学に関連しては...  
「高等学校基礎学力テスト」での「数学I」の導入  
「大学入学希望者学力テスト」記述式解答の導入(現在案では「国語」(優先), 「数学」)  
平成36年(新課程)以後, 「数理探究(仮称)」科目の導入

# 中教審 高大接続特別部会 答申

- 高等学校教育、大学教育を通じて育むべき「生きる力」「確かな学力」の明確化
  - ①豊かな人間性、②健康・体力、③確かな学力
- 高大接続改革の意義 「画一的な一斉試験で正答に関する知識の再生を一点刻みに問い、その結果の点数のみに依拠した選抜を行うことが公平であるとする「公平性」の観念という桎梏は断ち切らなければならない」
- 「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」を向上

# 中教審／新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた改革の方向性

- 高校教育における学習指導要領の抜本的見直し、アクティブ「ラーニング」への飛躍的充実
- 「高等学校基礎学力テスト(仮称)」の導入
- 大学教育におけるカリキュラム・マネジメント, 主体性を持って学ぶことのできるアクティブ・ラーニング
- 「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」の導入
- 個別選抜におけるアドミッション・ポリシーの策定を法令上位置付けるとともに、大学入学者選抜実施要項を見直す
- 大学にとって改革のインセンティブとなるような財政措置等の支援

# 中教審/(1)各大学のアドミッション・ポリシーに基づく、大学入学希望者の多様性を踏まえた「公正」な選抜の観点に立った大学入学者選抜の確立

## ① 各大学の個別選抜改革

(アドミッション・ポリシーに基づく個別選抜の確立)  
「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」、小論文、面接、集団討論、プレゼンテーション、調査書、各種大会での活動や顕彰の記録、その他受検者のこれまでの努力を証明する資料  
英語四技能の評価、四技能を測定する資格・検定試験の更なる活用を促進すべき

(多元的な評価に向けた意識改革と、新たな評価手法の蓄積・共有)  
個別選抜における「公平性」「客観性」と、効率性の重視から、「公正」な評価へ「パフォーマンス評価」、「ルーブリック」、「ポートフォリオ評価」

# 中教審／(1)各大学のアドミッ ション・ポリシー に基づく、大学入学希望者の多様性を踏まえた 「公正」な選抜の観点に立った大学入学者選抜 の確立

## ②入学希望者に求められる学力を評価する新テストの導入

大学入試センター試験の廃止

「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」の在り方

「思考力・判断力・表現力」を中心に評価

「合教科・科目型」「総合型」の問題を組み合わせ出題。将来は、「合教科・科目型」「総合型」のみとする

記述式解答の導入

資格試験的利用を促進する観点から、年複数回実施

段階別表示による成績提供

CBT方式での実施

英語における四技能の総合的評価、民間の資格・検定試験の活用

広範囲の難易度

社会人等を含め誰でも受験可能

経済的負担、障害者の受験方法の考慮

- ・赤字部分は、その後方針の変更のあったもの

# 中教審/(2)高等学校教育の質の確保・向上

「国家及び社会の責任ある形成者として、自立して生きる力」

## ① 高等学校段階の基礎学力を評価する新テストの導入

自らの基礎的な学習の達成度の把握及び自らの学力を客観的に提示することができるようにし、それらを通じて生徒の学習意欲の喚起  
改善

進学時や就職時の利用。進学時には調査書への記入による参考資料の一部として用いる

個人単位又は学校単位での希望参加

「国語総合」「数学I」「世界史」「現代社会」「物理基礎」「コミュニケーション英語I」などの必履修科目、英語の民間の資格・検定試験の活用

赤字部分は、その後方針の変更のあったもの

# 「高大接続システム改革会議」最終まとめ(案) (第13回,3月11日)

- 「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」の導入
- ア 検討の経緯
- イ 基本的事項
  - ① 目的・対象者

大学入学希望者を対象に、これからの大学教育を受けるために必要な能力について把握することを主たる目的とし、知識・技能を十分有しているかの評価も行うことに加え、「思考力・判断力・表現力」を中心に評価する。

このことにより、大学入学に向けた学びを、知識や解法パターンの単なる暗記・適用などの受動的なものから、学んだ知識や技能を統合し構造化しながら問題の発見・解決に取り組む、より能動的なものへと改革する。さらに、大学教育では、こうした学びを一層発展させる。...

# 「高大接続システム改革会議」最終まとめ(案)

- イ. 基本的事項
  - ②評価すべき能力の明確化とそれを踏まえた作問

上記の目的を達成するため、「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」においては、教科・科目の知識をいかに効率的に評価するかではなく、大学教育を受けるために必要な能力として、特に、**内容に関する十分な知識と本質的な理解を基に問題を発見・定義し、様々な情報を統合し構造化しながら問題解決に向けて主体的に思考・判断し、そのプロセスや結果について表現したり実行したりするために必要な諸能力をいかに適切に評価するかを重視する。...**

# 「高大接続システム改革会議」最終まとめ(案) (会議による現状の分析)

## ・イ. 基本的事項

### ③今後の社会で特に重要となる能力の育成・評価

現行の大学入試センター試験については、例えば以下のようなことが指摘されている。

- ・知識の習得状況の評価に優れていることに加えて、マークシート式中心でありながらも、与えられた問題を分析的に思考・判断する能力の評価に優れている。

- ・複数の情報を統合し構造化して新しい考えをまとめる思考・判断の能力や、その過程や結果を表現する能力の評価については更なる改革が求められる。

- ・なお、多肢選択式中心のため、選択肢の内容を参考として解答するなどのケースもある。

このうち、複数の情報を統合し構造化して新しい考えをまとめる思考・判断の能力や、その過程や結果を表現する能力は、今後、社会のどのような分野においても主体性を持って活動し、活躍するために特に重要となるものであり、こうした能力を高等学校教育や大学教育でよりよく育成していくことが重大な課題である...

# 「高大接続システム改革会議」最終まとめ(案)

ウ 具体的な仕組みの考え方

① 対象とする教科・科目等

(次期学習指導要領下における基本的枠組み(平成36年度～))

「数学と理科の知識や技能を総合的に活用して主体的な探究活動を行う新たな選択科目」(数理探究(仮称))の出題

数学、理科については、知識・技能に関する判定機能に加え、例えば、事象の中から本質的な情報を見だし、構造化し、解決する力など、思考力・判断力・表現力を構成する諸能力に関する判定機能を強化する。

新科目「歴史総合(仮称)」の導入について検討  
英語四技能について評価する。民間との連携の在り方を検討

# 「高大接続システム改革会議」最終まとめ(案)

## ウ 具体的な仕組みの考え方

### ① 対象とする教科・科目等

(現行学習指導要領下における基本的枠組み(平成32～35年度))

地理歴史、公民 : 例えば歴史系科目においては歴史的思考力に関する判定機能を強化する

数学、理科 : 例えば、事象の中から本質的な情報を見いだし、構造化し、解決する力など、思考力・判断力・表現力を構成する諸能力に関する判定機能を強化する。

国語 : 思考力、判断力、表現力を構成する諸能力の判定機能を強化

英語 : 四技能を重視

# 「高大接続システム改革会議」最終まとめ(案)

## ウ 具体的な仕組みの考え方 ② マークシート式問題の改善

マークシート式問題については、各教科・科目の特性を踏まえつつ、思考力・判断力を一層重視した作問への改善を図る。

その際、例えば、以下のような点に留意することが考えられる

問題に取り組むプロセスにも解答者の判断を要する部分が含まれるよう工夫すること  
複数のテキストや資料を提示し、必要な情報を組み合わせ思考・判断させること  
分野の異なる複数の文章の深い内容を比較検討させること  
学んだ内容を日常生活と結びつけて考えさせること  
他の教科・科目や社会との関わりを意識した内容を取り入れること

...

結果の表示については、知識偏重の「1点刻み」の弊害を改善し、個別大学の入学者選抜における多面的・総合的な評価を促進する観点から、多様な情報(例えば、素点だけでなく、各科目の領域ごと、問いごとの解答状況も合わせて提供するなど)を各大学に提供する。

# 「高大接続システム改革会議」最終まとめ(案)

- ・ウ 具体的な仕組みの考え方
  - ③ 記述式問題の導入

「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」に記述式を導入することにより、高等学校教育においても習得・活用・探究の学習過程における言語活動の充実が促され、生徒の能動的な学習をより重視した授業への改善が進むことが期待できる。なお、諸外国の大学入学資格試験においても記述式の採用例は多い。

今後、実証的・専門的な検討を丁寧に進める。

# 「高大接続システム改革会議」最終まとめ(案)

- ウ 具体的な仕組みの考え方
  - ③ 記述式問題の導入（作問と結果表示）

「条件付記述式」を中心に作問，対象教科は「国語」「数学」とし，  
「国語」を優先

過去の試験問題において問われている「思考のプロセス」，  
テキストの「情報間の関係性」の理解，統合・構造化を専門的に  
評価・検証

結果は段階別表示

# 「高大接続システム改革会議」最終まとめ(案)

- ウ 具体的な仕組みの考え方
- ③ 記述式問題の導入

(採点方法・体制)

設定した条件への適合性を中心に評価し採点することが考えられる。  
民間事業者等の活用して実施することも考えられる。また、個別大学の関与の在り方についても検討する。

採点業務を効率的・安定的に実施するための、人工知能を活用することも含め、新たな技術の開発と活用を積極的に進める。  
人的・時間的・財政的コストも勘案しながら、更に実証的・専門的な検討を行う。

(実施時期)

マークシートと同日、マークシートと別に実施の両方について検討

# 「高大接続システム改革会議」最終まとめ(案)

- ・ウ 具体的な仕組みの考え方
  - ④ 英語の多技能を評価する問題の導入  
四技能を重視  
民間の資格・検定試験の知見の積極的な活用の在り方なども含め検討
  - ⑤ 難易度設定の考え方  
できるだけ広範囲に設定,  
「数理探究(仮称)」は高難度の出題を検討(平成36年度以後)
  - ⑥ CBTの導入  
平成32～35年度 CBTの試行／平成36年度 CBTの導入

# 「高大接続システム改革会議」最終まとめ(案)

- ウ 具体的な仕組みの考え方

- ⑦ 実施回数<sup>の在り方</sup>

今回検討を進めている「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」では、前述のように

これまでの共通テストより以上に、学力を多面的・総合的に評価する新たな枠組みを提供することを狙いとしている。特に「記述式問題」については、別日程とすることを含めて検討している。こうした新たな枠組みが提供されることとなれば、1回の共通テストで教科の知識を基盤とした学力を1点刻みで評価するこれまでの枠組みを改善するという議論の狙いが相当程度実現すると考えられる。...同種のテストを複数回実施することについては、日程上の問題や、CBTの導入や等化等による資格試験的な取扱いの可能性などを中心に、引き続き検討することが適当である。

- ⑧ 受験しやすい環境整備の方策

試験時間, 検定料, アクセス, 障がいへの配慮, 海外からの受検

# 「高大接続システム改革会議」最終まとめ(案) 「高等学校基礎学力テスト(仮称)」について

- 目的: 「義務教育段階を含めた高校生に求められる基礎学力の確実な習得」「それによる高校生の学習意欲の喚起」
- 問題の収集・精査・蓄積、提供の枠組み  
CBT(Computer Based Test)を前提とした実施, アイテムバンクの構築, 複数のテストフォームによる実施
- 出題教科・科目  
国語、地理歴史、公民、理科、英語における必修科目  
平成31年度導入当初は国語、数学、英語とし、「国語総合」「数学I」  
「コミュニケーション英語」を出題範囲の上限とする

# 学習指導要領の改訂について(3月11日資料1-1, 1-2)

- 平成28年度内に中央教育審議会として答申
- 高校は平成34年度から年次進行により実施
- 「数理探究(仮称)」の基本原理
  - ①教科・科目の枠にとらわれない自由な視点で事象をとらえ(総合性)
  - ②数学的なものの見方・考え方や科学的なもの見方・考え方を柔軟な発想で活用したり、組み合わせたりしながら(融合性)、
  - ③探究的な学習を行うことを通じて(手立て)
  - ④新たな価値の創造に向けて粘り強く挑戦する力の基礎を培う(挑戦性、アイデアの創発)

## 会議に現れた数学関係の学習指導要領に関する議論

### 算数・数学ワーキンググループにおける検討事項 教育課程部会(平成27年12月17日)

#### 1. 算数・数学を通じて育成すべき資質・能力について

- ・算数・数学を学ぶ本質的な意義や他教科との関連性について
- ・三つの柱に沿った育成すべき資質・能力の明確化について
  - i) 何を知っているか、何ができるか(個別の知識・技能)
  - ii) 知っていること・できることをどう使うか(思考力・判断力・表現力等)
  - iii) どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びに向かう力、人間性など)
- ・幼稚園・小学校・中学校・高等学校を通じた算数・数学において育成すべき資質・能力の系統性について
- ・算数科・数学科において育成すべき資質能力と指導内容との関係について
- ・統計的な内容等の充実について

2. アクティブ・ラーニング(※)の三つの視点を踏まえた、資質・能力の育成のために重視すべき算数・数学の指導等の改善充実の在り方について

3. 資質・能力の育成のために重視すべき算数・数学の評価の在り方について

4. 必要な支援(特別支援教育の観点から必要な支援等を含む)、条件整備等について

# センター試験の現状（平成28年）

- 志願者数 56.4万人
- 受験者数 53.7万人
- 現役志願率 43.4% (平成2年は約15%)
  
- 英語筆記受験者数 53.0万人
- 数学I 受験者数 0.6万人, 数学I・数学A 39.2万人
- 数学II 受験者数 0.6万人, 数学II・数学B 35.3万人
- 首都圏(埼玉、千葉、東京、神奈川)で、数学の受験率が低い  
(3科目受検者の比率が多い)

日頃より、センター試験の問題作成，実施にご尽力いただき  
いただきありがとうございます。

今後とも，新テストを含め一層のお力添えをお願いいたします。